北海道サケネットワーク

ニュースレター　47

2015. 05. 05

昨年末に発行したニュースレター以降、ご無沙汰しておりますが、いかがお過ごしでしょうか。昨シーズン、サケの漁獲数は全国で4千万尾を僅かに越えましたが、平年の 5.6 千万尾には及ばない状況が続いております。本州太平洋側における東北大震災の影響が心配されましたが、幸いなことに大きな減少はありませんでした。そんななか、今年も人工ふ化した稚魚の放流が最盛期を迎えております。今回は、サケに関わる雑情勢を幾つか紹介します。

流通：日本におけるサケマスの輸出と輸入

財務省の統計によると、日本におけるサケマスの輸入量は 25 万㌧前後でほぼ横這いですが、ここ数年は減少傾向にあり、昨年は約 21 万㌧でした。約 20 年前、主な輸入はアメリカからのベニザケでしたが、最近はスーパーマーケットでもよく見かけるチリ産のギンザケが主体になっています。一方、日本からは多い年で 6 万㌧、最近は 4 万トンのサケマスが冷凍品として主に中国へ輸出されています。

環境：石狩川上流のサケ産卵床

石狩川の上流に建設された取水堰により、旭川市周辺へのサケの遡上は一度途絶えていました。最近、堰に魚道が設置されるとともに、市民団体の地道な放流や北海道区水産研究所の試験放流が功を奏し、旭川市内でサケの自然産卵が観察されるようになりました。しかし、昨秋の河川工事により、一部の産卵床が破壊されてしまいました。工事の際は自然環境にも配慮してほしいものです。

魚病：国内初のレッドマウス病

今年の 3 月、石川県のサケのふ化場で我が国では初めてレッドマウス病が発症しました。発症した魚は口の周辺が出血して赤くなります。この魚病は人に感染しないものの、「特定疾病」に指定されており、発症を確認した場合は殺処分等の蔓延防止策を義務付けられている恐ろしい病気です。

養殖：養殖用餌に牛肉骨粉が解禁

肉骨粉は狂牛病（牛海綿状脳症）の原因となるため、餌への使用が禁止されていましたが、この度、農水省は養殖魚の餌に限って使用を解禁するようです。欧米には、既に使用している国もあります。

博物館情報等

ネットワークの河村代表が深く関わっている積丹町余別で、「どっこい積丹・さくらます祭り」が開催されています。資料を添付しますので、時間の取れる方はご参加ください。

豊平川さけ科学館では 5 月 3-6 日、標津サーモン科学館では 4 月下旬―6 月下旬にサケやヤマメ稚魚の体験放流を行います。サケのふるさと　千歳水族館は 7 月 25 日のリニューアルオープンに向けて工事中です。乞うご期待。

サケネットワーク事務局